

3.4.1. データタイプ

需要計画や売上金額予測や在庫最適化などユーザーの目的に応じて、必要なデータは異なります。この節では、各場合別の必要データを説明します。

GMDH Streamlineは、広範囲のデータタイプをインポートします。それらは、以下のデータ要素に論理的に分割できます。:

- **取引データ**。 販売取引、またはすべての在庫移動取引データで構成され、頻繁に変更されるデータです。
- **品目情報**。 属性を表すデータの組み合わせで構成され、各計画品目を特徴づけます。一般的には静的なデータで、ほとんど変更されないデータです。
- **入荷オーダー情報**。 このグループのデータタイプは、未完了の**製造オーダー**、**移動オーダー**、**購入オーダー**に関する製品を表します。現在時点で、積送中や製造中も対象になります。
- **出荷オーダー情報**。 顧客に出荷すべき品目に関するデータで、未完了販売オーダーやバックオーダーが例になります。
- **部品表**。 製品品目の構成部品に関するデータタイプです。**資材所要量計画**に利用されます。
- **販売促進情報**。 GMDH Streamlineが、予測立案時に、将来の販売促進を考慮するための情報です。販売促進を頻繁に実施し、さらに需要が販売促進の値引きに依存する場合、データの用意が必要です。
- **置換情報**。 在庫にキット品目があり、キット品目の構成部品別に予測と在庫計画立案したい場合、GMDH Streamlineは自動でキット品目を構成部品に分解し、これらの情報を考慮します。このグループのデータタイプは、分解済みキット品目の計画に利用されます。

取引データ

各販売データや各在庫移動データは、ERPデータベースに取引としてあらわされるのが一般的です。取引は、いつ、どこで、何を、どれだけ販売したのか(あるいは在庫水準が変更されたのか)を表します。このセクションでは、ユーザーが用意する必要な取引データのデータタイプと任意の取引データのデータタイプを説明します。

- **需要計画**
- **売上金額予測**
- **在庫計画**
- **在庫KPI**

需要計画

需要計画のための基本的な取引データを下記の一覧表に紹介します。:

データ名	説明	データタイプ
日付	取引日付です。	日付または日時
販売数量	取引にて販売した数量です。	整数
品目コード	品目ID、SKUとしても知られています。	文字列

(例えば、店舗や倉庫や地域などの) **地点**、さらにチャネル別の予測を必要とする場合、**取引データ**は、下記の一覧表にあるデータが必要です。:

データ名	説明	データタイプ	未設定時	
			デフォルト	設定時
地点	(倉庫や店舗や地域など) 品目コード を販売する地点コードです。各地点の 品目コード 別消費量の予測に利用されます。	文字列	空の文字列	NULLまたは空の文字列
チャネル	品目が配送または販売されるチャネルを表します。例としては□E-コマースや、直接販売、販売店、単一顧客などです。			

インポートデータを説明している(上記のような)一覧表の**未設定時**セクションは、設定時データとのずれを許容することを意味します。**設定時**セクションは、GMDH Streamlineにデータとのずれを認識させるために□SQL クエリが渡すべきデータの値(またはマーク)を表示します。**デフォルト**列は、GMDH Streamlineがずれを埋めるために代用する値を表示します¹⁾□

地点または**チャネル**の空の文字列は、対象取引に**地点**または**チャネル**の組み合わせがないことを意味します。

売上金額予測

売上金額予測するためには、**取引データ**に加え、下記の一覧表あるデータタイプが1つ必要です。:

データ名	説明	データタイプ
販売価格/単位	販売取引の品目の1単位の価格です。	浮動小数点
取引売上金額	販売取引の合計金額です。一般的には、 販売価格/単位 に 販売数量 を乗じた値になります。	

販売価格/単位または**取引売上金額**の通貨は、プロジェクトの **基本通貨**から取得されます□GMDH Streamlineのレポートでは、通貨は意味を持ちません。

この情報は、売上を基礎とする**ABC**分析、年次売上金額、翌年次売上金額、粗利益率、交差比率などの販売金額に依存した**KPI**の計算にも利用されます。

在庫計画

補充計画を立案し、潜在的な欠品と過剰在庫を検出し、購入オーダーを作成するには、品目手持ち在庫情報が必要です。

品目手持ち在庫のインポートには、下記の一覧表の内の1つが必要です。

タイプ	データ名	説明	データタイプ	データ構成
1	最終 手持ち在庫	インポート時点の品目手持ち在庫です。	整数	品目情報
2	手持ち在庫	取引後に残っている手持ち在庫です。		取引データ
3	手持ち在庫 更新	取引後に変化した品目手持ち在庫です。これを利用する場合、販売取引だけではなく、品目手持ち在庫に影響を与えるすべての販売取引が必要です。在庫入荷、地点間の在庫移動、在庫調整、棚卸、減価償却、顧客からの返品、購入先への返品、その他が含まれます。		品目情報
	最終 手持ち在庫	インポート時点での手持ち在庫です。		

一覧表は、データ要素を横断的に必要なデータタイプを表示していることに注意してください。例えば、第3タイプは、取引データから**手持ち在庫 更新**を必要として、**品目情報**からは**最終 手持ち在庫**を必要とします。

第2タイプと第3タイプからデータを提供し、手持ち在庫をインポートする場合、次が可能になります。²⁾

- [在庫回転率](#)の計算
- 期間中に在庫が欠品した日数の計算([欠品日数](#))
- 機会損失の原因が自動で選択されます。選択される原因は、欠品と需要がないのどちらかになります。[販売数0は欠品が原因のオプションをユーザー自身で設定する](#)の手間を減らすことができます。

第3タイプからデータを提供し、手持ち在庫をインポートする場合、販売取引以外の取引では、**販売数量**を0にします。

在庫KPI

GMDH Streamlineに各取引の利益を設定するには、次のデータタイプをインポートします。

データ名	説明	データタイプ
取引利益	取引から得られた利益	浮動小数点

GMDHStreamlineはこの値から、各データ集計期間の総粗利額と直前12か月の総粗利額の計算をします。

品目情報

品目情報の最重要目的は、GMDH Streamlineに各**計画品目**の手持ち在庫数量を用意することです。そのため、手持ち在庫数量には品目IDが必要です。地点を利用しない場合、品目IDは、品目コードになります。地点を利用する場合、品目IDは、**品目コード**と**地点**の組み合わせになります。品目情報からインポートする手持ち在庫数量のデータタイプは、[以前のセクションにて説明済み](#)です。

手持ち在庫水準に追加できるデータタイプのデータ要素は、以下です。:

- [分類レベルの需要計画](#)
- [一般的な在庫計画](#)
- 特定の在庫計画:
 - 在庫最適化時の[制約の考慮](#)
 - 複数物流センターを持つ[2段階計画](#)
 - 特定区域内の[内部倉庫移動計画](#)

- 保存期限を持つ品目の計画

需要計画

GMDH Streamlineは、分類レベルの需要計画ができます。これは、分類ツリーのすべてのレベルで、**予測オプション**と**ユーザー自身の予測上書きの作成**ができることを意味します。これを行うためには、下記の一覧表にて紹介されているデータが必要です。:

データ名	説明	データタイプ	未設定時	
			デフォルト	設定時
品目分類□品目小分類	品目分類別の予測に利用します。	文字列	空の文字列の分類	NULLまたは空の文字列
地点分類□地点小分類	地点分類別の予測に利用します。			

階層の最下層に位置する空の分類は、問題なく設定できます。: 分類1 > 分類2 > ◯ > ◯ の場合は、品目が分類2に置かれることを意味します。ここで◯記号は空集合を表します。

最下層以外で空の分類は設定できますが、おすすめしません。 分類1 > ◯ > 分類3などが例になります。この場合□GMDH Streamlineは、空の名前の小分類を作成します。

インポートできる分類数には制限がないため、必要な数だけインポートできます。

品目コードと地点以外にも、下記の一覧表にあるデータを追加できます。:

データ名	説明	データタイプ	未設定時	
			デフォルト	設定時
品目説明	品目の説明です。 特定の品目コードが意味する内容をより分かりやすく説明するために利用されます。	文字列	空の文字列	NULLまたは空の文字列
地点説明	地点の説明です。特定の地点コードが意味する内容をより分かりやすく説明するために利用されます。			
情報フィールド	品目の追加の特徴(例としては、色、サイズ、外見など)です。このようなフィールドは、数に制限なくインポートできます。			

在庫計画

データソースにリードタイムやオーダーサイクルに関連するデータがある場合、下記の一覧表にて紹介するデータタイプ経由でデータをインポートできます。

データ名	説明	設定	データタイプ	デフォルト
リードタイム	購入先から供給される計画品目の場合、これは平均購入先リードタイムになります。 物流センター(DC) から供給される計画品目の場合、これは物流センターへオーダーしてから、 地点 に到着までの平均調達リードタイムになります。これら2つのリードタイムは、 GMDH Streamline は、これら2つのリードタイムを購入オーダー作成、または移動オーダー作成から受け取りまでの時間間隔として解釈します。	日数	整数	30
オーダーサイクル	購入先から供給される計画品目の場合、これは購入先への購入オーダー作成の頻度です。物流センターから供給される計画品目の場合、物流センターからの補充頻度です。	データ集計期間(週または月)、日またはリードタイム		1 データ集計期間

デフォルトでは□[GMDH Streamline](#)は、計画品目は購入先から供給されるとみなされます。物流センターから供給される計画品目に設定するには、[DC 名](#)データタイプを利用します。当然ですが、各計画品目についてリードタイム と オーダーサイクル を用意します。

リードタイムとオーダーサイクルと[取引データ](#)を利用して在庫補充計画の精度を高めるためには、[入荷オーダー情報](#)と[出荷オーダー情報](#)を[GMDH Streamline](#)にて設定することを強くお勧めします(下記)。

リードタイム分散を追加で設定することで、さらにレポートの精度を高めることができます(下記の一覧表を参照)。

データ名	説明	設定	データタイプ
リードタイム分散	リードタイムの分散です。	リードタイム 単位	浮動小数点

在庫を最適化には、[最終 手持ち在庫](#)□[リードタイム](#)□[オーダーサイクル](#)、その他の多くの入力があります。[安全在庫](#)は最適な [購入計画](#)の決定に利用されるため、これを入力の1つと考えることができます。

[GMDHStreamline](#)が安全在庫を計算する場合、2つの基礎的な計算方法があります。1つ目の計算方法は、サービス率を基礎とするよく知られた計算方法です□[GMDH Streamline](#)では、この計算方法を[実装](#)し、データベースから各計画品目のサービス率のインポートにも対応します。2つ目の計算方法は、[将来需要](#)に基づく計算方法です。特定の計画品目に対して、安全在庫として持ちたい需要の期間数を設定する方法です。

下記の一覧表にて、これらデータタイプを説明します。

データ名	説明	設定	データタイプ
サービス率	保管されている在庫が出荷できる確率です。顧客に販売できる製品の能力を反映します。	半开区間[0, 1)の小数 ³⁾	浮動小数点
安全在庫期間数	安全在庫として利用される需要の期間数です。	データ集計期間	

在庫KPIのデータタイプ

[GMDH Streamline](#)は、予測欠品在庫、粗利益率、その他の[測定基準](#)などの、重要在庫指標(KPI)の計算ができます。下記の一覧表にて、必要なデータタイプを説明します。

データ名	説明	データタイプ
在庫金額/単位	在庫となっている品目の1単位の収支評価額。 基本通貨 で設定します。下記の 品目購入単価 より、こちらが適切です。	浮動小数点
購入金額/単位	最新の品目購入単価で、購入先通貨で設定します。	
販売価格/単位	現在の品目の1単位の販売金額です。	

購入金額/単位は、推奨購入オーダーの**金額**の計算に利用されます□KPIのいくつか(例えば、年次売上金額、翌年次売上金額とその他)には、**販売価格/単位**または**取引売上金額**のインポートが必要です。

販売価格/単位は、**取引**から決定される最新の販売価格よりも、優先度が高い、**品目情報データ要素**から設定されます。

購入先通貨をインポートしない場合、**品目購入単価**には**基本通貨**が適用されます。

購入先情報

下記の一覧表にて、設定可能な購入先情報を説明します。

データ名	説明	データタイプ
購入先コード	購入先のIDです。	文字列
購入先通貨	購入オーダーの通貨です。	
購入先品目コード	ユーザーの 品目コード に対応する購入先の在庫リストの品目コードです。品目コードを購入先品目コードに置換して購入オーダーを 作成 できます。	

品目購入単価と**購入先通貨**をインポートしても、**在庫金額/単位**をインポートしない場合、**粗利益率**と**交差比率**は計算されません。

最適時の制約の考慮

在庫最適化時に、制約を考慮できます。制約は2種類あり、1つはオーダー品目数量に関する制約であり、もう1つは総量として購入オーダーに関する制約です。下記の一覧表にて、制約データタイプを説明します。

データ名	説明	データタイプ
陳列数量	棚に陳列する時の最小数量単位です。このパラメータは、小売業で一般的に設定されます。 最終的な安全在庫 の計算時に、この数量がいかに利用されるかを 設定 できます。	整数
<i>オーダー品目数量に関する制約</i>		
最小ロットと最大ロット	購入先もしくは物流センターから補充できる数量範囲の任意の制約を定義します。	整数
丸め	このパラメータは、正味オーダー数量を丸めます。段ボールの梱包数量を考慮し、必要数量から購入数量を作成します。	
<i>購入オーダーに関する制約</i>		
購入先最小数量	購入先が購入オーダーを受けるために、総量として必要となるオーダー品目の数量/重量/容積/費用の最小値です。	整数
購入先最小重量		浮動小数点
購入先最小容積		
購入先最小費用		
重量/単位	品目の1単位の重量です。	浮動小数点
容積/単位	品目の1単位の容積です。	

購入オーダーに関する制約は、**購入先コード**と関連します。購入先コードが設定されない場合は、空の購入先が設定されます。物流センターから供給される計画品目に**購入先コード**があり、さらにいくつかの制約が設定された場合、これらの制約は適用されません。

最小ロットと**最大ロット**や**丸め**といった制約は、品目の供給元に依存する場合があります。例えば、計画品目が物流センターから供給される場合と、購入先から供給される場合で、これらのパラメータが異なることがあります。

最小ロットが**最大ロット**よりも多い場合、**最小ロット**は使われず、**最大ロット**から計算にされます。**購入先最小重量**または**購入先最小容積**のようなオーダー制約を利用するには、**重量/単位**と**容積/単位**の設定が必要です。

購入オーダーに関する制約は、**品目保存期限**の制限とは、両立できません。仮に購入オーダー制約と保存期限の両方が設定された場合は、購入オーダー推奨値は、保存期限から計算せず、購入オーダー制約から計算します。

2020/09/29 06:44

2段階計画

2段階計画ができます。

単一の**物流センター (DC)**を持つ場合、追加データを必要とせずに、**DC 設定**内にあるオプションを設定ができます。しかしこの場合は、複数の地点のなかで1つの地点だけが購入先から直接供給される状況を考慮する機能は一切利用されません(つまり**DC**は意図的に利用されないことになります。)

複数の**DC**を持つ場合、**データベース 接続**を利用し複数の**DC**のインポートと設定ができます。この場合:

- 追加情報が必要です(下記)。
- 物流センターは常に**有効**となり、**設定の地点**コントロールは無効になります。
- 地点は、物流センターを経由せずに購入先から直接供給されることもできます。
- **DC 設定**内のオプションは、ユーザーが管理するすべての物流センターに一括して適用されます。

インポートできる物流センターの数には制限がなく、特定の物流センターから供給を受ける地点を品目別に設定できます。これには、(**地点**□**DC名**□**品目コード**)の3つの組み合わせで設定が必要です。例えば、(西日本□西日本 物流センター□ダークチョコレート)の3つの組み合わせは、物流センター:西日本 物流センターは、品目:ダークチョコレートを地点:西日本に供給することを意味します。

物流センター - 地点 の関係は、2つの制限があります。:

- 2つ(またはそれ以上)の物流センターは、同じ品目を同じ地点に供給できない⁴⁾
- 物流センターは他の物流センターに供給できない、つまり物流センターと地点の関係だけが設定可能

この関係の設定は、**品目情報クエリ**に**DC 名**データタイプの追加が必要です□**DC 名**は、上記で説明した(**地点**□**DC 名**□**品目コード**)の3つの組み合わせの**DC 名**になります。

データ名	説明	データタイプ
DC 名	地点に品目コードを供給する物流センターの名前です。	文字列

この時点で、GMDH Streamlineに関係を正しく設定できる**品目情報クエリ**のデータタイプを説明できません。

上記で説明しましたが、3つの組み合わせを設定するには、**品目情報クエリ**に次の3つのデータ列が必要です。: **地点**□**DC 名**□**品目コード**。下記の一覧表にて**SQL**クエリが用意すべき、レコード例を表示します。

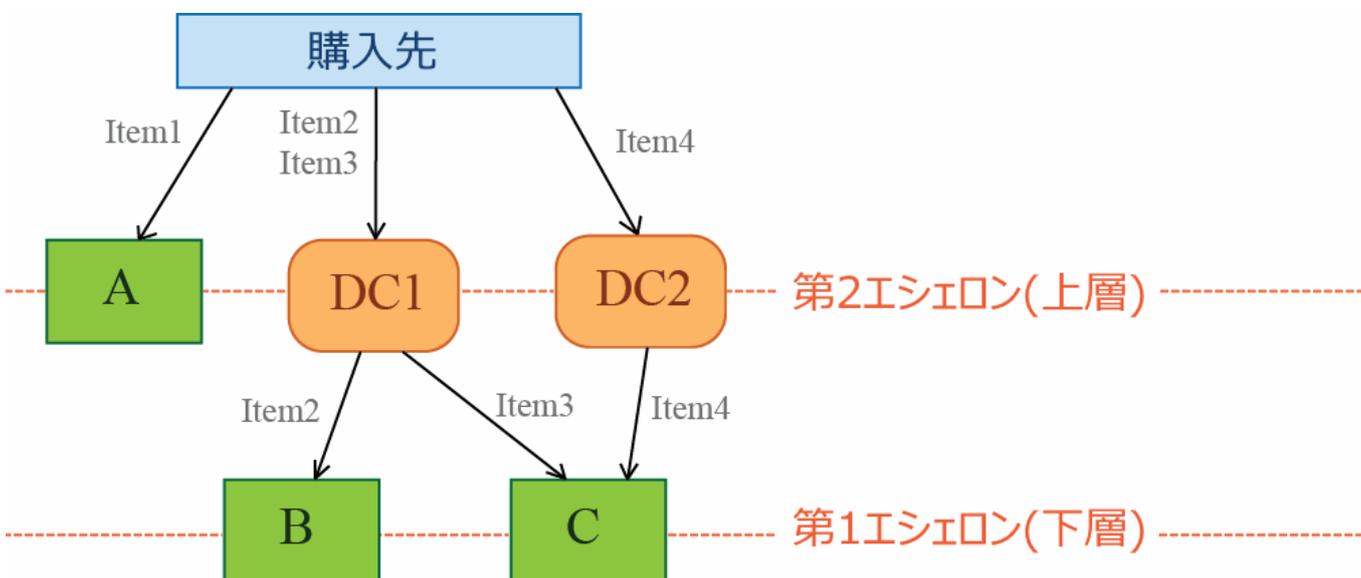
地点	DC 名	品目コード
A	DC1	Item1
DC1	NULL	Item1

各物流センター - 地点 - 品目 の関係に対して、一覧表はSQL クエリが2レコード返す必要があることを示します。第1レコードは、物流センター:DC1から地点:Aへのリンクを表し、Item1はDC1から地点:Aへ供給されます。第2レコードは、DC1がItem1を保存する地点として宣言します。

ある品目が物流センターを経由せずに購入先から直接地点に供給される状況を設定するにはSQL クエリは下記の一覧表に表示されているレコードが必要です。一覧表は例となるレコードを表示します。

地点	DC 名	品目コード
B	NULL	Item1

下記の図で用意されている例を考えます。



この場合SQL クエリは下記の一覧表にあるレコードが必要です。

地点	DC 名	品目コード
A	NULL	Item1
B	DC1	Item2
C	DC1	Item3
C	DC2	Item4
DC1	NULL	Item2
DC1	NULL	Item3
DC2	NULL	Item4

内部倉庫最適化

少なくとも1か所の保管所が過剰在庫であるときGMDH Streamlineは、保管所間の在庫移動の計画立案ができます。デフォルトでは、最小から最大になる現在のオーダーを満たすために、過剰在庫を消費し、補充対象の保管所数の最大化します。

さらに、移動が許可される区域を導入することで、上記ルールに制約を追加できます。制約は、各地点が所属する区域の組み合わせで設定します(下記の一覧表を参照)。

データ名	説明	データタイプ
移動区域	地点が属する区域	文字列

異なる区域に属する地点間では、移動は発生しません。それと同時に、移動は、同じ区域に属する地点間で、許可されます。

これらの制約任意です、つまり**移動区域** データタイプは隙間を持つことがあります、つまり、内部倉庫移動に関係しない地点を定義できます。

保存期限を持つ品目の計画

[保存期限を持つ品目の計画](#)ができます。品目保存期限は、2つの単位で設定できます(下記の一覧表を参照)。

データ名	説明	設定	データタイプ
保存期限 期間	品目が販売されるまでの期待時間です。	データ集計期間	浮動小数点
保存期限 日数		日数	

保存期限 パラメータは、在庫最適化の制約として利用されます。[今回のオーダー 数量](#)の最長期限は、設定された保存期限 期間と立案された需要予測から計算されます。

入荷オーダー情報

この情報は、未完了の**製造オーダー**、未完了の**移動オーダー**、未完了の**製造オーダー**があることを示します。これには、積送中の在庫と製造中の在庫も含まれます。

下記の一覧表にて、データタイプを(オーダーを区別することなく)説明します。

データ名	説明	データタイプ
品目コード	品目ID□SKUとしても知られています。	文字列
入荷数量	入荷する数量です。	整数
入荷日付	(任意 オーダー 発行日 が設定された場合) 予測予定日	日付または日時
オーダー発行日	(任意 入荷日付 が設定された場合) オーダーが作成された日付。ユーザーのデータがインポートされたときに、 次回オーダー日付 を計算するため、 オーダー 発行日 を利用します。	
地点	(任意) 品目の送付先の地点。 地点をインポートした場合必要です。	文字列
ロット費用	(任意) 購入オーダー明細行の費用。	浮動小数点

データ名	説明	データタイプ
オーダー番号	(任意) 取引番号。この情報は、 購入オーダープレビュー ダイアログ にて、表示目的のみで利用されます。	文字列
オーダータイプ	(任意) この取引のオーダーを区別するために利用されるデータタイプです。オーダータイプには次の3種類あります。 製造オーダー 、 移動オーダー 、 製造オーダー 、 入荷日付 が設定されない場合、 オーダータイプ から 入荷日付 を決定します。	
供給元	(任意) 品目の由来を設定します。由来は、物流センターや購入先や地点(保管所)の可能性がります。このデータタイプは、 積送在庫詳細ダイアログ にて表示目的のみで利用されるため、定義方法は、ユーザーに依存します。しかし、次を利用することを勧めます。: <ul style="list-style-type: none"> 購入先の購入先コード 保管所または倉庫の地点コード 物流センターを利用した場合の物流センター名 このデータタイプは、通常 オーダータイプ と関連します。例えば、移動オーダーは、一般に保管所などを供給元とします。	

入荷日付または、[オーダー発行日](#)のどちらかの設定が必要です。[入荷日付](#)がより適切です。
2020/09/29 06:44

次の一覧表にて、[オーダータイプ](#)別の期待[入荷日付](#)決定方法を紹介します。

オーダータイプ	地点	条件	入荷日付
購入	保管所/物流センター		オーダー発行日 + 購入先 リードタイム
移動	保管所	物流センターと関連する保管所	オーダー発行日 + 物流センターから保管所への リードタイム
		物流センターと関連しない保管所	オーダー発行日 + 1 日
製造	保管所/物流センター		オーダー発行日 + 0 日

一覧表から次のことがわかります。:

- 移動の場合、内部倉庫移動と物流センターから供給される計画品目をインポートすると、物流センターから保管所への[リードタイム](#)を考慮します。
- 内部倉庫移動と物流センターから供給されない計画品目をインポートすると、配送時間を1日とします。つまり、同じ地点内の保管所間は、1日の距離であるとします。
- 製造リードタイムは、[考慮されません](#)。インポートされた数量は[手持ち在庫](#)に加算され、加算後の(あるいは訂正後)手持ち在庫は[結果](#)を計算するための入力として利用されます。

出荷オーダー情報

将来の手持ち在庫をより正確に計算するため、顧客へのお荷オーダーに関する情報を考慮できます。出荷オーダーは、未完了販売オーダーまたは一時品切れまたは入荷待ち(バックオーダー)とも呼ばれます。

下記の一覧表にて、データタイプを(オーダーを区別することなく)説明します。

データ名	説明	データタイプ
品目コード	品目ID□SKUとしても知られています。	文字列
出荷数量	顧客へ出荷する品目の数量です。	整数
出荷日付	顧客へ出荷する日付です。バックオーダーの場合、何らかの約束の納期の可能性があります。	日付または日時
地点	(任意) 出荷した(あるいは出荷予定となる)地点です。地点を利用する場合必要です。	文字列

出荷日付が設定されない場合は、オーダー計画計算時に、GMDH Streamlineは、販売オーダーがすでに顧客へ出荷済みとみなし、**手持ち在庫**から**出荷数量**を差し引きます。**手持ち在庫**に十分な数量がない場合□GMDH Streamlineは差分をオーダーします。

2020/09/29 06:44

部品表

部品表情報は、製品品目の構成部品を表示します。構成部品は、中間品目(製造を目的とした中間階層に位置する)や材料品目(製造の最下位に位置する)と考えることができます。インポートできる組み立ての階層数には、制限がありません。

GMDH Streamlineは、バッチ生産の部品表をサポートします。言い換えると、部品表は、製品品目のまとめ生産数量に利用される構成部品とその数量を記載します⁵□

下記の一覧表にて、資材所要量計画に必要なデータタイプを説明します。

データ名	説明	データタイプ
製品品目コード	製品品目または中間品目のコード。	文字列
材料品目コード	材料品目コードまたは構成部品品目コード。	
材料数量/バッチ	製品品目のバッチ数量を生産するための材料または構成部品の数量	整数
製品バッチサイズ	(任意) 製品品目のバッチ数量、言い換えると生産数量です。設定されない場合、デフォルトとして1が設定されます。	

販売促進情報

予測モデル作成時に、GMDH Streamlineは、与えられた販売促進を自動で考慮します。下記の一覧表にて、必要なデータを説明します。

データ名	説明	データタイプ
品目コード	品目ID□SKUとしても知られています。	文字列
地点	(任意) 販売促進を実施した地点。	
チャンネル	(任意) 販売促進品目を配送、または販売したチャンネル。	
開始日	販売促進開始日	日付または日時
終了日	販売促進終了日	
値引率	販売促進の値引率。小数で設定します。30%の値引率の場合、0.3を設定します。	浮動小数点

将来の販売促進を考慮するため、過去の販売促進の値引率を設定し、同じフォーマットで将来の値引率が必要です(例を見る)□

すべての地点で一斉に行われた販売促進を考慮する場合、**地点列**に空の文字列を設定します。

置換情報

キット品目⁶⁾を在庫に持ち、それらの構成部品別に予測や計画を立案したい場合、この情報をから自動的にキット品目を分解します。下記の一覧表にて、必要なデータタイプを説明します。

データ名	説明	データタイプ
材料品目コード	キット品目の構成部品品目コードです。	文字列
構成部品の数量	キット品目に必要とされる構成部品の数量です。	整数
キット品目コード	キット品目の品目コードです。	文字列

[次へ: データインポート](#)

[PDFダウンロード](#)

1)

翻訳者注釈: 地点を例に説明する場合SQLにて地点の値をNULLまたは空の文字列とした場合、地点に空の文字列が設定されGMDH Streamlineでは地点は利用されません。言い換えると、地点を利用する場合NULLまたは空の文字列以外の設定が必要です。

2)

翻訳者注釈: 第1タイプからインポートする場合、次ができません。

3)

翻訳者注釈: 0.0以上1.0未満

4)

翻訳者注釈: ある地点にある品目を供給できるのは、物流センター数は1つだけです。上記の3つの組み合わせでは、品目:ダークチョコレートを地点:西日本に供給できるのは、物流センター:西日本 物流センターのみになります。

5)

翻訳者注釈: 製品品目の数量は1である必要はありません。製品品目を12単位作成するための構成部品とその数量を設定できます。

6)

翻訳者注釈: セット商品、アソート、アソート品などと呼ばれることもあります。お菓子の詰め合わせなどが実例です。

From:

<https://gmdhsoftware.com/documentation-sl/> - **GMDH Streamline Docs**

Permanent link:

<https://gmdhsoftware.com/documentation-sl/ja:database-connection-data-types>

Last update: **2020/09/26 11:02**

